

# 仙台版防災教育実践ガイド (授業実践例)



震災遺構 仙台市立荒浜小学校

平成31年4月

仙台市教育委員会

## 仙台版防災教育 授業実践例

掲載した授業実践例は、「仙台版防災教育実践ガイド（改訂版）」P9「7 仙台版防災教育 年間指導計画に位置付ける事項」の1～5を取り上げたものです。

### 1 学区内の地理，気象条件等，環境や実態に応じた防災に関する活動の実施

実践例	校種	学年	指導事項の分類	主として育成を目指す資質・能力	関連する教科等	単元名
1	小	中	D (2)	思考力・判断力・表現力等の育成	学級活動	台風・大雨の災害から命を守る (P1～P3)
2	中	1	D	思考力・判断力・表現力等の育成	学級活動	自分を守る～大地震に備えて～ (P4～P6)
3	中	2	A (2) A (3)	知識及び技能の習得	学級活動	自然災害に備えよう～発生のメカニズムと災害～ (P7～P9)

### 2 仙台版防災教育副読本の活用

実践例	校種	学年	指導事項の分類	主として育成を目指す資質・能力	関連する教科等	単元名
4	小	低	B (1)	知識及び技能の習得	学級活動	じしんがおこったらどうするの (P10～P11)
5	小	低	A (3), F (3)	学びに向かう力・人間性等の涵養	学級活動	ふるさとを元気に (P12～P13)
6	小	高	B (3)	知識及び技能の習得	体育 (保健)	防災人としての知恵～けがの手当～ (P14～P17)
7	中	2	B (2)	知識及び技能の習得	学級活動	災害心理と正しい情報の入手 (P18～P20)

### 3 東日本大震災の体験者からの講話等、震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組

実践例	校種	学年	指導事項の分類	主として育成を目指す資質・能力	関連する教科等	単元名
8	小	中	C (1)	知識及び技能の習得	総合	命を守る非常食 (P21～P22)
9	小	高	F (2)	学びに向かう力・人間性等の涵養	総合	語り継ごう 東日本大震災 (P23～P30)
10	中	全	F (2)	学びに向かう力・人間性等の涵養	総合	震災を語り継ごう～語り継ぐあの日の記憶～ (P31～P32)

### 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施

実践例	校種	学年	指導事項の分類	主として育成を目指す資質・能力	関連する教科等	単元名
11	小	高	B (1)	思考力・判断力・表現力等の育成	学級活動	大災害に備えよう (P33～P36)
12	中	2	C (2) F (3)	学びに向かう力・人間性等の涵養	学級活動	避難所開設時、中学生の私たちにできること (P37～P39)

### 5 仙台市復興ソングの継承

実践例	校種	学年	指導事項の分類	主として育成を目指す資質・能力	関連する教科等	単元名
13	小	中	F (2)	学びに向かう力・人間性等の涵養	学級活動	歌い継ごう～「復興ソング」 (P40～P42)
14	中	3	F (2)	学びに向かう力・人間性等の涵養	学級活動	「復興への歩み」を語り継ごう (P43～P45)

(※実践例番号の□囲みは改訂版に新たに加えた実践例)

<b>1</b>	<b>年間指導計画に位置付ける事項</b>
	<b>学区内の地理，気象条件等，環境や実態に応じた防災に関する活動の実施</b>

授業実践例 1	学級活動
小学校 中学年	D (2)

**台風・大雨の災害から命を守る**

**1 授業について**

- (1) 教科等のねらい
  - (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全  
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- (2) 防災教育のねらい
  - 台風や大雨に遭遇した時，危険を避けるためにどのように行動するかを自分で考えることができるようにする。

**2 授業プラン作成に当たって**

- (1) 児童の実態
 

児童が生活する地域には大きな河川が流れており，平成28年の台風接近時は，河川の増水，一部決壊により，避難勧告が出た地域もある。しかし，堤防が整備され川で遊ぶことが少なくなった児童にとって，河川はそれほど身近な自然として捉えられていない。また，台風や大雨により河川がどんな状態になり，どんな被害があるのか，具体的には知らない児童も多い。たとえ災害の危険が迫っていても，それを予測し，正しい判断により命を守る行動をとれるとは言い難い。
- (2) 指導事項の概要
 

台風や大雨によって起こりうる危険を予測し，どんな行動をとるべきかを身に付けさせる。その中で，河川の状態がどのように変わるのかを知ることにより，河川の近くで生活する児童に水害について正しい知識を持たせ，災害時の備えとする。
- (3) 指導の方向
 

台風や大雨の時に予想される危険を考えさせたい。また，台風による大雨で，七北田川がどんな状態になったのかを記録した映像資料を示し，河川には，自分たちが想像する以上の危険があることに気付かせたい。さらに，ハザードマップにより，今年の台風での浸水地域や土砂崩れの箇所を確認し，どんな場所が危険なのかを考えさせたい。台風や大雨の時は，どんな行動を取ればよいのかを理解させたい。

**3 授業の流れ**

段階	学習活動	指導のポイント
導入	○学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             台風や大雨の時，どんな危険があるのだろうか。           </div> ・映像から，台風や大雨に関する経験や知識を思い出し，課題をつかむ。	・台風のニュース映像を示し，様々な危険を想起しやすくする。
展開	○台風や大雨の時の，予測される危険について自分の考えを持つ。 ・強い風で物が飛ばされる。 ・集中豪雨により，川の水が増える。 ・土砂くずれが起こる。 ・道路が通れなくなる。	【ワークシート】

	<p>○ペアで意見交換する。</p> <p>○地域を流れる七北田川にも危険があることを知る。</p> <p>○ハザードマップから、浸水箇所と土砂崩れの箇所を確認し、どんなことに気を付けたらよいか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川が曲がっているところや川幅のせまいところが浸水している。</li> <li>・川から離れる。</li> <li>・土砂崩れしそうなところに近付かない。</li> </ul> <p>○河川の危険は雨が降っているときだけではないことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダムの水を放流すると、増水する。</li> <li>・雨が止んでも、上流（泉ヶ岳の方）で大雨が降っていると、急に増水することもある。 →西の空が暗いときは、上流で雨が降っているかもしれない。</li> </ul>	<p>【仙台版防災教育副読本 P.24】 いろいろな自然災害</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台風時の七北田川の映像や写真を提示し、増水や流れの速さ、周りの木々がなぎ倒されている様子から、危険を捉えさせる。</li> <li>・ハザードマップを見ながら危険に気づき、正しい行動を考えることができるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈評価〉台風や大雨に遭遇した時、危険を避けるためにどのように行動するかを自分で考えることができたか。 (発言、ワークシート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダム放流のサイレンを聞かせる。</li> </ul> <p>【仙台版防災教育副読本 P.32】 災害から身を守るために (自然のサインを見のがすな)</p>
<p>終末</p>	<p>○本時の学習を振り返り、台風や大雨の時の危険と、自分の命を守るためにすべき行動についてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時は、危険を予測し、正しい判断をして安全な行動をとることが大切だということを知らせる。</li> </ul>

#### 4 板書計画

大雨・台風の水害から命を守る

台風や大雨の時、どんな危険があるのだろうか。

写真

写真


- ・強い風  
ものが飛ばされる。
- ・川の水が増えている。
- ・土砂くずれ。
- ・道路が通れなくなる。

七北田川

- ・浸水
- 七北田公園
- ・土砂くずれ

ハザードマップ

- ・風が強いとき  
→建物の中に入る。頭を守る。
- ・台風や大雨のとき・サイレンが鳴っているとき  
→川に近付かない。川からはなれる。
- ・土砂くずれの危険があるところ  
→近付かない。



水の力

5 評価

台風や大雨に遭遇した時、危険を避けるためにどのように行動するかを自分で考えることができたか。

6 ワークシート

大雨・台風から命を守る

4年 組 ( )

(1) 台風や大雨のとき、どんな危険が考えられますか。

(2) 台風や大雨のとき、どんなことに気を付けて行動しますか。

風が強いときは

( )

台風や大雨のとき・( ) になっているとき

( ) の方の空が暗いときは

( )

※ 台風や大雨のときの正しい行動が分かりましたか。 ( ◎ ○ △ )

<b>1</b>	<b>年間指導計画に位置付ける事項</b>
	<b>学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施</b>

授業実践例 2	学級活動
中学校 1 学年	D

自分を守る～大地震に備えて～

1 授業について

(1) 教科等のねらい

- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全  
エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

(2) 防災教育のねらい

災害時に起こり得る学校内等での危険を状況に応じて具体的に予測し、安全確保の手順や優先順位を整理することができるようにする。

2 授業プランの作成に当たって

(1) 生徒の実態

東日本大震災から8年が経過し、中学生にとっては幼少期の体験となり、震災当時の記憶が薄らいできている状況である。熊本地震や東日本大震災の余震などがあり、地震に対する意識は、日頃から持っていると思われるが、改めて地震の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動と日常的な備えができるようにする必要がある。

(2) 指導事項の概要

仙台版防災教育副読本『3.11から未来へ』第4章「自分を守る」を活用し、大きな災害が起きたときに、自分の命をどのようにして守るかということについて考えさせる。東日本大震災で体験した災害が「恐ろしかった……。」だけで終わらせないようにするために、日頃から自分たちがどのように行動したらよいかを考えさせる。

(3) 指導の方向

学校生活で大地震が起こったときの行動について考えさせる。小学校から行ってきた避難訓練などを通して、行動については、おおむね把握しているものと思われるが、中学校の学校生活で起こりうる危険状況を踏まえ、安全確保の手順や優先順位について考えさせたい。また、それぞれの考えを共有する話し合い活動を通して、かけがえのない自分の命の大切さを改めて見つめさせるとともに、どのように行動することが適切なのかについて考えさせたい。さらに、不意の災害時に命を守るための術を学ばせ、いざという時に集団の中で自他の命を守るための適切な行動ができるようにしたい。これらのことを通して、日頃からの備えこそが大切であることに気付かせたい。

3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	○避難訓練を振り返る。 ・経験してきた避難訓練をイメージする。	・自分の命を守るための学習であることを知らせる。
展開	○学習課題を把握する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">学校で大地震が起こったら、どのように行動することが適切か考えてみよう。(※震源：宮城県沖 10km 震度：5強 マグニチュード：7)</div> ○休み時間、教室にいるときに宮城県沖を震源とする震度5強、マグニチュード7の地震が発生した場合、避難するまでに考えられる危	・ワークシートを配付し、自分の考えを記入させ、発表させる。

	<p>険を考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蛍光灯が落下する。 ・窓が割れる。</li> <li>・机が倒れる。 ・ドアが開かなくなる。</li> <li>・避難経路に物が落ちている。</li> <li>・避難時に転んでいる人がいる。 など</li> </ul> <p>○地震の想定場面を具体的に考え、安全に避難するまでの手順を考えよう。 (生活班で話し合い、発表する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ、どこで、何をしているときに発生するか。</li> <li>・どんな危険が考えられるか。</li> <li>・どんなことに注意をするか。</li> <li>・優先順位をどうするか。どの手順で安全を確保するか。</li> <li>・指示は誰が出すのか。</li> </ul> <p>○各班で考えた内容をまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通点や相違点を確認しながら、避難するまでの行動について確認する。</li> </ul> <p>○安全に避難するために、どのように行動することが適切か考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこにいるときでも一人一人が自分で判断して避難できるようにする。</li> <li>・いろいろな場所で活動しているときに全員が落ち着いて行動できるようにする。</li> <li>・先生に頼らず安全を確保できるようにする。</li> <li>・誰かが指示を出さなくても逃げられるようにする。</li> <li>・授業以外の時間でも、主体的に避難できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間なので教職員が常にいるとは限らないことに気付かせる。</li> <li>・副読本 P.36 の写真を見ながら、自分たちが毎日どこでどんな行動をしているかを思い起こさせる。</li> <li>・状況を観察し、想定場面が他の班と重なっても構わないことを伝える。</li> <li>・発表ボードに記入させ、黒板に貼るようにさせる。</li> <li>・根拠も含めて発表させ、全体で考えを共有できるようにさせる。</li> <li>・ワークシートに各自記入させる。状況により、班で意見を交換させる。</li> <li>・必要に応じて、登下校時に関しても考えさせる。</li> </ul> <div data-bbox="963 1077 1398 1368" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈評価〉 災害時に起こり得る学校内等での危険を状況に応じて具体的に予測し、安全確保の手順や優先順位を整理することができたか。 (発言、ワークシート)</p> </div>
終末	<p>○学習を振り返る。 自分の考えと友達のことを比べ、どのように行動することが適切なのかを確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の行動や備えが大切であることをにも気付かせる。</li> </ul>

#### 4 板書計画

<div data-bbox="209 1585 632 1653" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>学校で大地震が起こったら</b> </div> <p>〈設定〉震源：宮城県沖 震度：5強 マグニチュード：7 (教室：休み時間) 【考えられる危険】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蛍光灯が落下する。・窓が割れる。</li> <li>・机が倒れる。 ・ドアが開かなくなる。</li> <li>・避難経路に物が落ちている。</li> <li>・避難時に転んでいる人がいる。</li> </ul>	<div data-bbox="863 1615 1377 1675" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>どのように行動することが適切か</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で判断して避難する。</li> <li>・全員が落ち着いて行動する。</li> <li>・先生に頼らず安全を確保する。</li> <li>・指示が出なくても安全に逃げる。</li> <li>・授業以外時も主体的に避難する。</li> <li>・部活をしているとき、身を守る。</li> </ul>
--	--

#### 5 評価

災害時に起こり得る学校内等での危険を状況に応じて具体的に予測し、安全確保の手順や優先順位を整理することができたか。



6 ワークシート

<学習課題>

学校で大地震が起こったら、どのように行動することが適切か考えよう。

★地震発生 【震源】宮城県沖 深さ10Km 【震度】5強 【マグニチュード】7

1 休み時間、教室にいるときに大地震が起きたら、どんな危険が考えられますか。

場所	時間帯	その場の状況	発災時に考えられる危険	避難時に考えられる危険
教室	休み時間	友達と話をしている (先生はいない)		

2 地震発生の“具体的な場面”を想定しよう！

いつ	月ごろ : に地震発生		
どこで	【生徒の居場所】		
何をしていたか	(その場の状況をできるだけ細かく)		
	発災時に考えられる危険		避難時に考えられる危険

避難するまでの手順を考えよう！

時間	避難の手順	
	地震発生	発災時に気を付けること
	避難開始	
	避難完了	避難時に気を付けること

3 安全に避難するためには、どのように行動することが適切だと思いますか（理由も書く）。

授業実践例 3	学級活動
中学校 2 学年	A (2), A (3)

### 自然災害に備えよう ～発生のメカニズムと災害～

#### 1 授業について

##### (1) 教科等のねらい

- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全  
 エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

##### (2) 防災教育のねらい

気象情報を正しく理解するとともに大雨や突風などの自然災害に関する知識を深めることで，非常時に冷静な行動ができるようにする。

#### 2 授業プランの作成に当たって

##### (1) 生徒の実態

近年，集中豪雨や突風による自然災害が報道で取り上げられる機会が多い。生徒は中学 2 年の理科で天気の変化について学ぶが，既習事項によって得た知識と気象警報・注意報が発表される背景を関連付けて授業を進めたい。具体的には，自然災害発生時，身を守るために大切なことを学ぶとともに，気象警報・注意報が発表された際，どのような災害が発生するのか予想し，判断・対応する力を身に付けさせる必要があると考える。

##### (2) 指導事項の概要

資料として仙台版防災教育副読本『3.11 から未来へ』第 4 章「3 様々な自然災害に備える」を活用する。最初に，気象警報・注意報の種類を知らせ，地域の地理的な特性や気象の特性を確認させる。続いて，生徒自身が住む地域で自然災害が心配される場所を考えさせる。その際，より身近な課題として思考を深めることができるよう自然災害発生時の写真等を提示するなど工夫する。

##### (3) 指導の方向

気象警報・注意報はニュースや天気予報で耳にする機会も多いが，その意味を理解している生徒は少ないと考える。気象情報を正しく理解することが防災につながることを指導したい。また，通学路や家の周辺，学校周辺で自然災害が心配される場所を考えさせることで，災害を予測でき，自助につながることを指導したい。

#### 3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気象警報・注意報の存在について知るとともに，その意味を確認する。</li> <li>・発生が予想される災害規模によって，注意報と警報が使い分けられている。</li> <li>・人間の感覚で発表されるのではなく，決められた数値がある。</li> <li>○特別警報が設定された経緯と，その意味を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に気象警報・注意報が発報されたときのニュース映像を見せ，災害との関連性を可視化させる。</li> <li>・気象警報・注意報の発表が行われると，避難勧告や避難指示，避難命令等が発表されることにも触れる。</li> </ul>

<p>展開</p>	<p style="text-align: center;">自然災害に備えるために必要なことは何だろう</p> <p>○大雨の場合を例に、災害から身を守るために大切なことや、注意報・警報・特別警報の発表基準を、副読本を参考にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨の状況、空の変化、日常の備えについて語群から表を完成させる。</li> </ul> <p>○副読本の表から分かることを発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気象警報・注意報の発表基準は数値化されている。</li> <li>・平坦地と平坦地以外では、それぞれの発表基準が異なる。</li> </ul> <p>○自分が住む地域で大雨などによる自然災害が心配される場所を挙げ、意見交換する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台版防災教育副読本『3.11から未来へ』第4章「3 様々な自然災害に備える」を用いて指導する。</li> <li>・通学路や家の周り、学校周辺など、生徒が考えやすい場所について取り上げる。</li> <li>・地理的状况によっては土砂崩れや河川の氾濫なども取り上げる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈評価〉気象情報を正しく理解するとともに大雨や突風などの自然災害に関する知識を深めることができたか。</p> </div>
<p>終末</p>	<p>○地域の地理的な特性、気象の特性によって発生する自然災害は異なることを知る。</p> <p>○地理的・気象的特性等を正しく理解することで、災害を予測でき、自助につながることを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沿岸部は津波、低地や平野部は大雨による冠水、山間部は土砂災害など、具体的な例を挙げながら生徒に示す。</li> <li>・実際の災害状況を写真等で示し説明できるとよい。</li> <li>・特性等を正しく理解することで、災害を予測でき、自助につながることを話す。</li> </ul>

#### 4 板書計画

自然災害に備えよう

自然災害に備えるために必要なことは何だろう

- ・情報の収集
- ・早めの行動
- ・避難情報の確認
- ・冷静な判断

(各班の意見交換の結果を記載)

↓

少しでも安全な場所へ移動

自然災害が心配される身近な場所

○…

○…

○…

気象情報を理解する  
地域の特性を理解する

災害の予測

自助

#### 5 評価

気象情報を正しく理解するとともに、大雨や突風などの自然災害に関する知識を深めることができたか。

#### 6 ワークシート

別紙

## 「自然災害に備えよう」

1 ニュースの天気予報などで、時々「注意報」や「警報」という言葉が出てきます。注意報と警報の違いは何でしょうか？

●災害が起きる恐れがある場合 →( )  
 ●重大な災害が起きる恐れがある場合 →( )

2 平成 25 年 8 月 30 日に気象庁からこのような基準が発表されました。何でしょう？

●命の危険があることも含めた今までにない重大な自然災害が起きる恐れがある場合  
 →( )

3 仙台版防災教育副読本『3.11 から未来へ』第 4 章「3 様々な自然災害に備える」を参考に表をまとめてみましょう。

(1)大雨の場合に災害から身を守るために大切なこと

普段から・・・	大雨になるおそれ 雨が降り出す	空の情報・空の変化に注意	( )は 大丈夫？
雨が強くなる と・・・	( )	最新の情報に注意 ( )の影響を受けやすい地区、 ( )困難者は早めの行動	( )の 準備・行動を！
大雨が降り続く と・・・	( )	( )が発表する避難情報に注意 必要に応じ速やかに( )	( ) が発表されなく ても行動を！
さらに激しい大 雨がが続くと・・・	( ) 非常事態	ただちに( )行動をとる 避難勧告に従い直ちに( )へ 避難！ 外出が危険な場合は( ) で少しでも安全な場所へ移動！	( ) が大事 周囲の状況に応 じた行動を！
この語群から上 の表を完成させ ましょう	特別警報 警報 注意報	命を守る 気象庁(自治体) 避難所	冷静な判断 特別警報 備え 早め

(2)「注意報」・「警報」・「特別警報」の発表基準 (仙台市 東・西部 平坦地・平坦地以外)

	「注意報」	「警報」	「特別警報」
大雨	3時間雨量( )mm	3時間雨量( )mm	( )に一度の降水量となる大雨になる おそれ
津波	高さが 0.5m 前後 津波注意報	高さが( ~ )m 津波警報(災害が予想)	( )m 超の津波が予想 大津波警報(内陸部まで影響が及ぶおそれが大 きい)

4 右の写真は台風が仙台を通過したときに写した仙台市の様子です。みなさんの身の周り(通学路・家の周り・学校周辺)で大雨などによる被害が心配される場所がありますか？ 情報交換しながらいくつか挙げてみましょう。



・  
・  
・

授業実践例 4	学級活動
小学校 低学年	B (1)

### じしんがおこったらどうするの

#### 1 授業について

- (1) 教科等のねらい
  - (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全  
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- (2) 防災教育のねらい  
学校の周りや家の周りの危険個所に気付き、地震が起こった時に危険から身を守る方法や避難の仕方を理解できるようにする。

#### 2 授業プランの作成に当たって

##### (1) 児童の実態

子供たちは、地震被害の状況をVTR等で見るとはありますが、地震の大きな揺れに伴って起こる様々な危険に対して具体的なイメージが持てず、地震が起こったときの対処方法については意識していないと思われる。また、防災についても、日頃からの準備や訓練の大切さに気付いていないと考えられる。

##### (2) 指導事項の概要

仙台版防災教育副読本（第4章1「ちゅうい！家のまわり 学校のまわり」P.30・31）を活用する。地震が起こった時に自分で自分の命を守るためには、どこにどのような危険が潜んでいるかを予測し、素早く適切な判断や行動をすることが大切である。低学年では、特に学校や自宅のある身近な地域について、具体的なイメージを持たせながら、状況に応じた避難ができるようにすることをねらいとした。

##### (3) 指導の方向

地震が起こった時の、様々な場面での危険性や対処方法を話し合いながら、自分の命を守るためには、素早く適切な判断や行動をすることが大切であることを理解させ、日頃からの準備や訓練の大切さについても気付かせていきたい。

事前指導 ・地震による被害の写真を提示し、地震で大きな被害がでることを実感させ、家庭で地震が起こった時に注意することを話し合ってくるよう伝える。

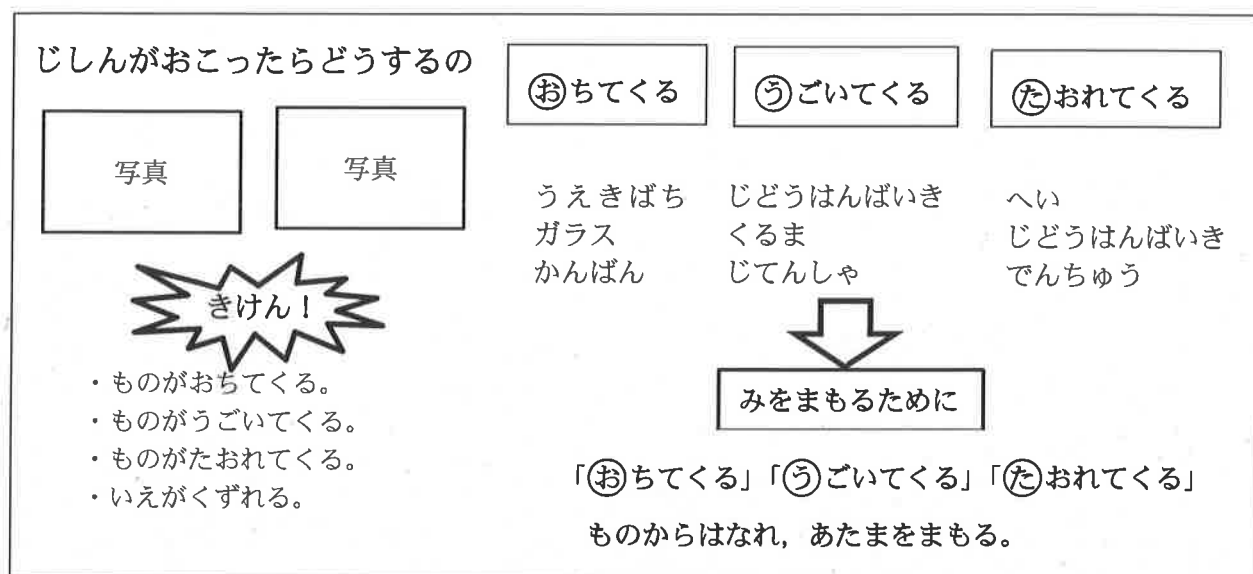
事後指導 ・道徳（読み物資料等で生命を大切にしようとする心情を育てる）

#### 3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	<p>○ 家の周りや学校の周りで地震が起こった時の危険と、自分の身がどうなるかを考える。</p> <p>・物が落ちてくる。 ・家が崩れる。 ・物が動いてくる。 ・火災が起きる。 ・物が倒れてくる。</p>	<p>・自分の命を守るための学習であることを知らせる。</p> <p>・通学場面のVTR等を見せ、ここで地震が起こったらどうなるかを考えさせる。</p> <p>・地震は、いつ、どこで起こるかわからないことをおさえる。</p>
展開	<p>○ 写真やイラストから、地震が起こった時に、どんな危険があるかを考える。</p> <p>・おちてくる 植木鉢・ガラス・看板 ・うごいてくる 自動販売機・車・自転車 ・たおれてくる 塀、自動販売機・電柱</p>	<p>・仙台版防災教育副読本のP.30・31の写真やイラストを見て、「おちてくる」「うごいてくる」「たおれてくる」と記載されたカードを使って三つの観点から分類する。</p> <p>・P.30のイラストの危険箇所印を付けさせる。</p>

	<p>○学校の周りの注意するところについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物が落ちてきそうなところ。</li> <li>・動いてきそうなものの近く。</li> <li>・倒れそうなものの近く。</li> <li>・道路、歩道橋、用水路。 など</li> </ul> <p>○自分の通学路において、もし地震が起こったらどこに避難するか、どのようにして身を守るかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガラス窓から離れる。</li> <li>・塀や家の下から離れる。</li> <li>・自動販売機や電柱など倒れやすい物から離れる。</li> <li>・頭を守る。</li> <li>・川の近くに行かない。(高い所に逃げる)</li> <li>・広いところに集まり、しゃがんで、ゆれが納まるまで動かない。</li> <li>・落ち着いて行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「町たんけん」が既習の場合は、その時の写真や絵地図を提示する。</li> <li>・校地やその周辺にあるものを、具体的な名称で取り上げる。 (○○川, ○○山, ○○ビルなど)</li> <li>・落ちてこない, 倒れてこない, 動いてこない安全な場所を考えさせる。</li> <li>・どんな場所においても, 身を守るために必要なことを考えさせる。(副読本 P.31)</li> <li>・エレベーターの中や, 乗り物の中にいるとき, 道を歩いているときについても対応を考えさせたい。</li> <li>・ペアやグループで話し合い, 発表し合うなど児童が主体的に考えたり判断したりする学習活動を工夫する。</li> <li>・実際の状況を想定して, 動作化させることも効果的である。 (ランドセルを頭にのせて頭を守る…など)</li> </ul> <p>〈評価〉学校や家の周りの危険個所に気付き, 地震が起こった時に危険から身を守る方法や避難の仕方を知ることができたか。(発言・発表)</p>
終末	<p>○学校の周りや家の周りいるときに, 地震が起こったときの, 自分がとるべき行動についてまとめる。(お)う)た)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを友達や家の人と出かけた時に, 確かめたり調べたりしてみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「(お)ちてくる」「(う)ごいてくる」「(た)おれてくる」の言葉を使ってまとめる。</li> <li>・慌てることなく, 自分のまわりを確認し, 素早く危険を判断して安全な場所に避難することを確認する。</li> </ul>

#### 4 板書計画



#### 5 評価

学校の周りや家の周りの危険個所に気付き, 地震が起こった時に危険から身を守る方法や避難の仕方を知ることができたか。

授業実践例 5	学級活動
小学校 低学年	A (3) F (3)

## ふるさとを元気に

## 1 授業について

## (1) 教科等のねらい

- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全  
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

## (2) 防災教育のねらい

地域に起こった震災の被害の様子を知り、身の回りの人のために役立とうとする態度を育てる。

## 2 授業プランの作成に当たって

## (1) 児童の実態

東日本大震災直前や震災後に生まれた子どもたちは、地震被害の状況をテレビで見たり話を聞いたりすることはあっても、地震の大きな揺れや津波に対して具体的なイメージが持てず、被害の大きさについてはよく分からない。仙台七夕まつりで飾っている「復興鶴」についても、何のためにしているのかについては気付いていない児童が多いと考えられる。

## (2) 指導事項の概要

仙台版防災教育副読本（第2章4「ふるさとを元気に自分たちにできること」P18～P19）を活用し、「仙台を元気にしたい」という願いのもと、小中学生が毎年復興への思いを込めて鶴を折り、仙台七夕まつりで飾っていることを知らせる。平和な暮らしを願って行っていることを押さえた上で、東日本大震災を風化させないよう願いをこめて「復興鶴」を折ろうとする態度を育てる。

## (3) 指導の方向

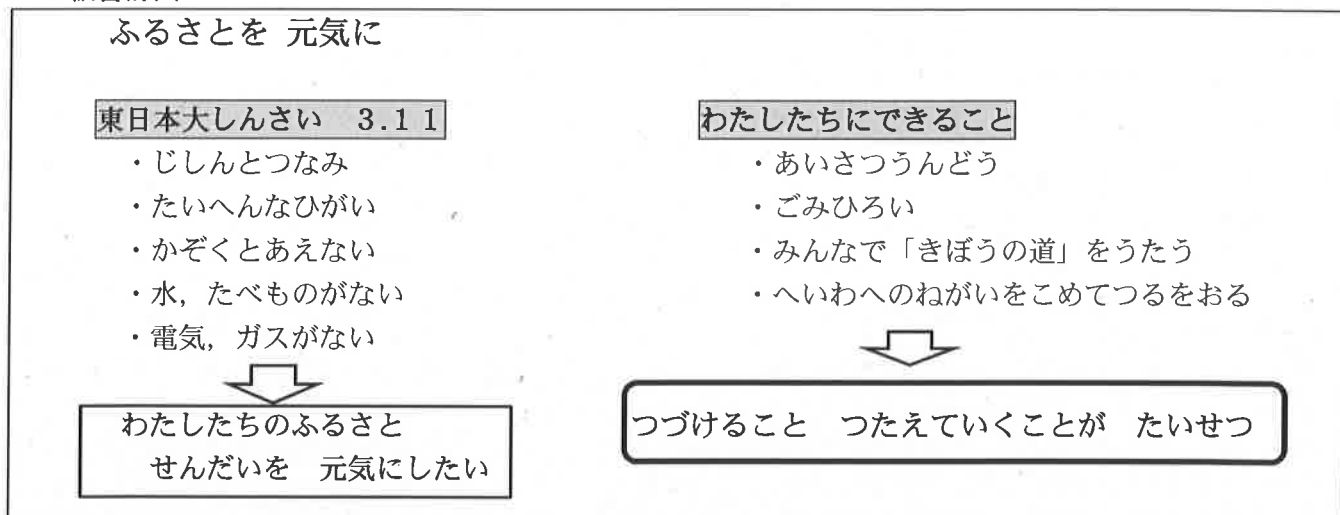
仙台版防災教育副読本の巻頭の東日本大震災発生時の写真を見せながら、揺れたときの様子や被害の状況について説明を加えながらイメージさせ、教師の震災体験などを話す。命の大切さや自助・共助の必要性を知らせ、自分たちのまちを元気にするためにできることについて考えさせたい。本時を授業参観や縦割り活動時に設定し、親子で折ったり上級生に教えてもらったりしながら、一緒に折ることも効果的である。

## 3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	1 大きな地震があったとき、どんな様子だったかを知る。「3.11 から未来へ」P4～P9) ・食べ物や水・電気・ガスがない。 (寒い・暗い・余震が怖い) ・電話が繋がらない。 ・家族と会えない。	・震災を経験していない児童なので、巻頭の写真を見せながら、揺れたときのことや被害の様子について説明をし、教師の震災体験などを加え、イメージ化を図る。 ・仙台版防災教育副読本 第2章「家族とのさかい会」P12～P13 を読み聞かせるのもよい。
展開	2 仙台版防災教育副読本 P18～P19 第2章4「ふるさとを元気に自分たちにできること」の写真や文を読んで話し合う。 ○ふるさと「仙台」を元気にするために、どんなことをしていますか。 ・あいさつ運動をしているよ。ぼくたちも	・資料1. 2. 3を読み、写真や文章から、復興のための取り組みを上げさせる。大人だけではなく、子供たちも取り組んでいることに

	<p>やったね。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみひろいをしている。</li> <li>・地域の人が歌を歌っている。</li> <li>・小学生が募金をしている。</li> <li>・小学生が鶴を折っている。</li> </ul> <p>願いを込めて折っている感じ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台七夕に飾られている。みんなの気持ちがつながる感じがする。</li> <li>・七夕飾りの下で合唱をしている。きれいな声がみんなにとどくように。</li> </ul> <p>3 自分たちにできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴を折るときには、気持ちを込めて折りたいな。</li> <li>・ぼくたちの学校でもあいさつ運動をやっている。元気にあいさつをしたい。</li> <li>・登校途中にゴミ拾いをしたい。地域がきれいになる。</li> </ul> <p>4 復興鶴を折ることを伝え、折る前に紙の裏にメッセージを書いて発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな地震が起こりませんように。</li> <li>・みんなが無事に暮らせますように。</li> <li>・みんなの笑顔がふえますように。</li> <li>・家族みんなが長生きしますように。</li> </ul>	<p>気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台七夕で飾っている折り鶴の写真を見せ、何のためにしていることなのかを考えさせる。</li> <li>・発達段階によって、考えることにとどめるだけでなく、小さなことでも具体的な行動に移すことの大切さを押さえる。</li> <li>・発表したことについて教師が賞賛し、「自分たちにもできることがある」という思いを持たせていく。</li> <li>・これからも忘れないように続けていこうとする気持ちを持たせる。</li> <li>・ふるさとを元気にするメッセージを書かせ、発表させる。</li> </ul> <div data-bbox="885 952 1444 1131" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈評価〉地域に起こった震災の被害の様子について知り、ふるさとを元気にするために自分たちも役立とうとする思いを持つことができたか。(発言・発表)</p> </div>
<p>終末</p>	<p>5 本時の学習を振り返り、復興鶴を折る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・願いが届くように折ろう。</li> <li>・丁寧にきれいに折ろう。</li> <li>・集中して真剣に折りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな気持ちで折りたいかを発表させ、思いを込めて鶴を折らせる。</li> <li>・折る際に、復興ソング「希望の道」をBGMにしたり、教育センターHPのムービーを見せたりするのも良い。</li> </ul>

#### 4 板書計画



#### 5 評価

地域に起こった震災の被害の様子について知り、ふるさとを元気にするために自分たちも役立とうとする思いを持つことができたか。(発言・発表)

資料 教育センターHP ムービー 2018 児童生徒による故郷復興プロジェクト～みんなの願いを一つに～



授業実践例 6	体育（保健）
小学校 高学年	B (3)

## 防災人としての知恵～けがの手当～

## 1 授業について

## (1) 教科等のねらい

G 保健 (2) けがの防止 ア (イ) けがなどの簡単な手当は、速やかに行う必要があること。

## (2) 防災教育のねらい

けがをしたときの簡単な手当の仕方を理解できるようにする。

## 2 授業プランの作成に当たって

## (1) 児童の実態

多くの学校が、5年生で野外活動を行っている。その際、登山や野外炊飯などでけがをすることも想定される。しかし、この時期の児童は、けがをしたときは大人に手当をしてもらうことが主で、正しい対処方法を理解している児童は限られている。

そこで、自分でできるけがの手当にはどのようなものがあるかを知らせ、演習を通してその方法を理解させることが必要であると考え。児童が正しいけがの対処の仕方やとるべき態度を身に付けることは、安心して活動に取り組むことにもつながる。さらに、災害時においてけがをした場合も、落ち着いて適切な行動をとろうとする態度を育てることになるものとする。

## (2) 指導事項の概要

けがをしたときは、けがの悪化を防ぐ対処として、けがの種類や程度などの状況をできるだけ速やかに把握し、処置することが必要である。それを踏まえて、自分でできるけがの手当にはどのようなものがあるかを理解させる。また、演習を通して、簡単なけがの手当の方法を理解できるようにする。

## (3) 指導の方向

野外活動の内容から起こりうるけがについて考えさせ、万が一けがをした場合は、どのような行動をとればよいかを考えさせる。また、学校や家庭にいるときとは違うことから、簡単なけがの手当については、自分たちで応急処置をする必要があることに気付かせ、手当の方法を理解させたい。さらに、災害時においても、身の回りの物を活用しながら、自分たちでできる応急手当を行おうとする態度を育てたいと考える。なお、指導に当たっては、養護教諭とのTTも想定したい。

## 3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	○野外活動で起こりうるけがについて考える。 ○過去の野外活動でのけがのデータを知る。	・野外活動の内容を提示し、どのようなけがが起こりうるかを考えさせる。 ・実際に野外活動でどんなけががあったかを知らせ、課題を自分のこととして捉えられるようにする。

<p>展開</p>	<p>○本時の課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>けがの種類による対応の仕方を 知ろう。</p> </div> <p>○骨折やねんざ、切り傷、やけどをした場合の応急手当の方法を知る。</p> <p>○身の回りにあるもので、応急手当に使えるものがないかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>骨折</b> 添え木⇒段ボール・雑誌・傘 三角巾⇒レジ袋・ラップ</li> <li>・<b>傷</b> カーゼ⇒ハンカチ・タオル</li> <li>・<b>やけど</b> 水道水⇒ペットボトルの水</li> </ul> <p>○養護教諭の話聞き、応急手当をするときの注意点を知り、実演を見る。</p> <p>○グループごとに応急手当の演習を行う。</p> <p>○手当の仕方が理解できたかを振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは、自分たちで手当ができるか、けがの程度を見極める必要があることを知らせる。</li> <li>・①骨折②傷③やけどの手当について、「新しい保健」(5.6年 P.24)を基に説明する。</li> <li>・段ボール、レジ袋、ハンカチ、ペットボトル、ラップなどを準備しておき、提示する。</li> <li>・「仙台版防災教育副読本」(小学校 4.5.6年 P.34)などを参考にさせ、身の回りにあるものを活用した応急手当の方法に気付かせる。</li> <li>・養護教諭が教師をモデルに応急手当を実演しながら、注意点について知らせる。</li> <li>・今回はグループごとに、骨折の手当の仕方について協力して演習を行うように指示する。</li> <li>・資料(腕の骨折の手当)を配布し、手順を参考にさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈評価〉 けがをしたときの簡単な手当の仕方を理解している。(演習・ワークシート)</p> </div>
<p>終末</p>	<p>○本時の授業で分かったことや日頃から気を付けたいことなどを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野外活動だけでなく、災害時でも</li> <li>・みんなで協力して手当</li> <li>・普段から水の入ったペットボトルやラップの備え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがをしたとき、どんな行動をとればよいかについて考えをまとめさせ、発表させる。</li> </ul>

#### 4 板書計画

<p>防災人としての知恵</p> <p>〈予想されるけが〉</p>	<p>けがの手当について知ろう</p>	<p>骨折・ねんざの手当</p> <p>① 変形がないか ② 冷やす ③ そえ木で固定 そえ木 ⇒ 段ボール 雑誌 三角きん ⇒ レジ袋 ラップ</p>	<p>切りきずの手当</p> <p>① 水で洗う ② カーゼで保護 ガーゼ ⇒ ハンカチ タオル</p>
<p>野外活動 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねんざ</li> <li>・骨折</li> <li>・切りきず</li> <li>・やけど</li> </ul>	<p>骨折・ねんざの手当</p>	<p>やけどの手当</p> <p>○ 服の上から水 水道水 ⇒ ペット ボトルの水</p>	<p>○ かんたんなけがは自分たちで手当 ・速やかに ・協力して</p> <p>○ 身の回りのもので工夫</p>
<p>今までの けがデータ</p>			

#### 5 評価

けがをしたときの簡単な手当の仕方を理解することができたか。

#### 6 ワークシート

別紙

防災人としての知恵～けがの手当～

5年 組 名前

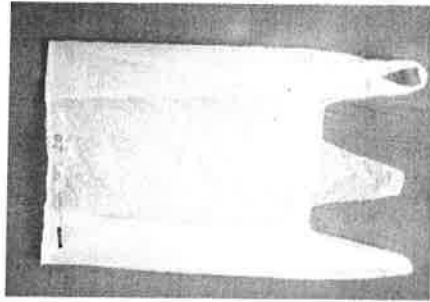
○けがをしたときの手当の方法

けがの種類	手当の方法や工夫	振り返り
骨折 ねんざ	①	
	②	◎
	③	○
	そえ木の工夫⇒ ( ) 三角きんの工夫⇒ ( )	△
切りきず	①	◎
	②	○
	ガーゼの工夫⇒ ( )	△
やけど	○	◎
		○
	水道水の工夫⇒ ( )	△

○分かったことやふだんから準備したいこと

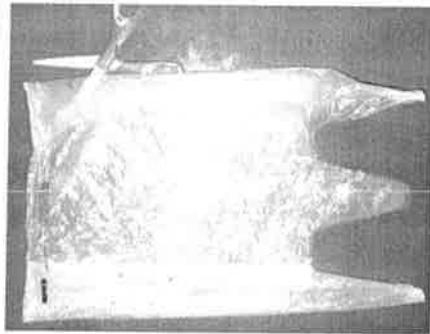
(けがをしたとき、どのように行動していきたいかについても書きましょう。)

## 7 資料（腕の骨折の手当～レジ袋を活用する場合）



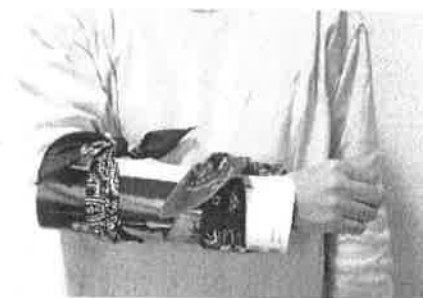
(1) スーパーなどのレジ袋を用意します。

\* 袋のサイズはやや大きめ（底の長さが30cmぐらい）がよい。あまり大きすぎると袋にひじがしっかりと直角に収まらなくなります。



(2) レジ袋のつり手の横に切り込みを入れて、底から約2cm残して切ります（手でも切れます）。

\* 反対側は切りません。



(3) 骨折（ねんざ）した部分を固定します。2日分の新聞紙（同じ厚さであれば雑誌でもよい）で腕を包みこみます。

(4) 骨折した場所から、上下2つの関節をバンダナ、包帯や三角巾、シーツ、ネクタイなどでしっかり結び、固定します。



(5) 切り込みを入れた側から固定した腕を通し、骨折した腕のひじが、切っていない側の底の部分にすっぽりと入るようにします（指先は、切っていない側のつり手の部分の方に出します）。

(6) 切った側のレジ袋のつり手を骨折していない手で持ちます。



(7) レジ袋のつり手の部分に頭を通して首にかけます。

(8) 完成です。

授業実践例 7	学級活動
中学校 2 学年	B (2)

### 災害心理と正しい情報の入手

#### 1 授業について

##### (1) 教科等のねらい

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

##### (2) 防災教育のねらい

災害時に見られる人間心理について理解するとともに、災害時に迅速に行動するために必要なことを整理する。

#### 2 授業プランの作成に当たって

##### (1) 生徒の実態

人間は非常時、特に災害発生時には偏った思い込みや先入観（バイアス）が働きやすく、東日本大震災や近年の豪雨災害でもバイアスによって迅速な行動がとれないケースが見られた。また、情報の入手方法が限られた中で、情報が錯綜し混乱する事態も起きた。これらの反省を踏まえ生徒が災害心理を理解し、正しい情報を得るための手段や心掛けについて学ぶことの意義は大きいと考える。

##### (2) 指導事項の概要

資料として仙台版防災教育副読本『3.11 から未来へ』第4章「5 災害心理について学ぼう」を活用する。過去の災害において、なぜ迅速に行動できなかったのか、その理由を知らせるとともに迅速に行動するために必要なこと、正しい情報の入手法、家族の安否確認の方法について考えさせる。

##### (3) 指導の方向

最初に、人が災害に遭遇した際の心理について知らせる。「自分は大丈夫」という考えを持たせないよう、地下鉄火災事故等を紹介する。続いて、災害時に迅速に行動するために必要なことを話し合わせ、発表させる。その際、事前に約束事を決めておくことや、率先して声掛けを行うことなどを引き出せるようにするとともに、平時の生活態度が大きく関わることに気付かせたい。最後に正しい情報の入手手段・判断の目安を紹介し、自ら行動できる態度を養いたい。

#### 3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	<p>○海外で起きた地下鉄火災の発災時の写真を見せる。</p> <p>なぜ乗客は逃げなかったのか？</p> <p>○災害時に見られるバイアスについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正常性バイアス</li> <li>・同調性バイアス</li> <li>・オオカミ少年効果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイアス（偏った思い込み、先入観）について防災教育副読本を用いて説明する。</li> <li>・イギリスの心理学者ジョン・リーチ博士が提唱した10-80-10理論を参考に、80の割合にあたる「思考停止する人間」がバイアスに陥りやすいことを伝える。</li> </ul>

<p>展開</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">災害時に迅速な行動をとるために必要なことは何だろう</p> <p>○課題を受けて、迅速な行動をとるために必要なことを班で話し合う。</p> <p>&lt;予想される意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練に真剣な態度で臨む。</li> <li>・家族と避難先を確認しておく。</li> <li>・非常時の行動ルールを決めておく。</li> <li>・自分から進んで声掛けを行い、避難行動ができるようにする。</li> </ul> <p>○班で出た意見をまとめ、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの際、各班で進行役と記録役を決め、円滑に進行できるよう支援する。</li> <li>・平時の生活のようすが非常時の行動に反映されることに気付かせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;評価&gt; 災害時に見られる人間心理について理解するとともに、災害時に迅速に行動するために必要なことを整理できたか。</p> </div>
<p>終末</p>	<p>○正しい情報の入手手段と判断の方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災では、停電により、情報を入手する手段が限られた。また、SNSに虚偽の情報が含まれたことで人々が混乱した。</li> </ul> <p>○災害伝言ダイヤル・災害伝言板の利用方法を知る。</p> <p>○本時を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各省庁や役所、テレビやラジオからの災害情報など、公的な機関から発信された情報を用いて判断することを知らせる。</li> <li>・仙台市の場合は「杜の都防災メール」から地域の状況を受け取ることができることも知らせる。</li> <li>・家族の安否を確認する際、災害伝言ダイヤル・災害伝言板が有効であることを知らせる。</li> <li>・本時の学習を振り返り、災害時に自分がどのように行動しようと考えたかを発表させる。</li> </ul>

#### 4 板書計画

##### 災害心理について学ぼう

地下鉄火災  
の写真

- ・何が起きているか
- ・なぜ逃げなかったのか

##### 災害時の人間心理

- ・正常性バイアス…「自分は大丈夫だろう」
  - ・同調性バイアス…「周りが避難しないから…」
  - ・オオカミ少年効果…「今回も大丈夫だろう」

災害時に迅速な行動をとるために必要なことは何だろう

##### 情報の入手手段と判断の方法

- ・公的な機関からの情報を利用  
(役所からの情報、杜の都防災メール)
  - ・災害伝言ダイヤル
  - ・災害伝言板
- } 家族の安否確認

#### 5 評価

災害時に見られる人間心理について理解するとともに、災害時に迅速に行動するために必要なことを整理できたか。

#### 6 ワークシート 別紙

# 災害心理について学ぼう

( )年( )組 名前( )

## 1 災害時の心理

(1) 地下鉄火災事故の写真から

・何が起きているのか… \_\_\_\_\_

・なぜ逃げなかったのか… \_\_\_\_\_

(2) 災害時のバイアス（先入観）

「自分は大丈夫だろう」 … ( )

「周りが避難しないから…」 … ( )

「今回も大丈夫だろう」 … ( )

## 2 災害時に迅速な行動をとるために必要なことは何だろう

自分の考え

班の意見

## 3 情報の入手手段と判断の方法

- ・公的な機関からの情報
- ・発信元が明確であること
- ・地域防災メールの利用

災害伝言ダイヤル（市外局番なし 番号 \_\_\_\_\_ ）

災害用伝言板

いずれも、伝言を録音・登録し、他の人が再生・確認できる

→ 家族の安否確認に有効

授業実践例 8	総合的な学習の時間
小学校中学年	C (1)

## 命を守る非常食

## 1 授業について

## (1) 教科等のねらい

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

## (2) 防災教育のねらい

どのような食料が非常食に適しているかを理解することができるようにする。

## 2 授業プランの作成に当たって

## (1) 児童の実態

震災をきっかけとして各家庭で非常食を備えるようになってきた。中学年の児童は、「非常食とは何か」をある程度知ってはいるものの、「どのような食料を非常食として備えておくとういかに」についてはあまり分からず、「実際に自分の家で備えているか」の認識も曖昧であるといえる。

## (2) 指導事項の概要

C(1)「家庭での備え」、(2)「学校や地域での備え」の中の非常食を取り上げる。

- ・大きな災害の直後はライフラインが止まり、調理や冷蔵保存ができなくなること
- ・調理が不要で、常温保存、長期保存できる食料を非常食として備えておくこと
- ・各家庭で3日～1週間分の非常食を備えておくことが大切であること

を取り扱う。その他、非常食を備える留意点として、ふだん使いの食料品の買い置き、賞味期限を考えての計画的な消費、家族構成に対応する食料等があるが、授業の構成と児童の発達段階によって取り扱うものとする。

## (3) 指導の方向

中学年の児童の実態を考慮して、非常食への興味・関心を引き出し、各家庭での備えを確認するきっかけとしたい。授業では、導入で東日本大震災の体験者をゲストとして呼び、震災直後、食料の調達に苦労したことを話していただく。その後、小学校の備蓄倉庫にある非常食を調べる活動を行い、どのような食料が非常食に適しているかを考えさせたい。さらに、家庭の協力を得ることで、家族とともに自分の家の非常食を確認したり非常食となり得る食料を調べたりする活動に発展させる。可能ならば、非常食を実際に試食してみる活動も取り入れたい。

## 3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	1 震災直後の食料調達の苦労を知る。 ・震災直後、電気やガス、水道が止まり、調理でき	・仙台版防災教育副読本 P.41 ・写真資料（避難所となった小



	<p>なかった。電気の復旧には約1週間かかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校には2500人が避難してきた。小学校には600人分の水と食料(クラッカー, アルファ米)しかなかった。</li> <li>・店や避難所には, 食料を求めて多くの人が並んだ。</li> </ul> <p>2 学習課題を設定する。</p> <p>災害に備えて, どのようなものを非常食として用意しておくよいか。</p>	<p>学校に食料を求めて並ぶ人たち, 食料を配付する様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災の体験者をゲストとして呼び, 震災直後, 食料の調達に苦労したことを話していただく。</li> </ul>
展開	<p>3 予想を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気が止まったら, 冷蔵庫は使えないだろう。</li> <li>・水道が止まるかもしれないので, 水も必要だ。</li> <li>・缶詰は, 調理がいらないのでよいと思う。</li> <li>・たしか, 家にはアルファ米というのがあった。</li> <li>・カセットコンロがあれば, インスタントやレトルト食品も食べられる。</li> </ul> <p>4 学校の備蓄倉庫にある非常食を調べる。</p> <p>飲料水, アルファ米, クラッカー, おかゆ, アレルゲンフリー・カレーライス, 羊羹</p> <p>5 気付いたことや疑問点を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理しなくても, そのまま食べられる。</li> <li>・場所は冷蔵庫の中ではなかった。</li> <li>・種類があるけど, 食べるものが限られている。</li> <li>・量はかなりあるが, みんなで何日分かな。</li> <li>・賞味期限とは何か。「2020年~月」と書いてある。あと~年も先まで食べられる。</li> <li>・甘いものもある。羊羹は食べたことがあるか。</li> <li>・「アレルゲンフリー」とは何だろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理できない状況を想定させて, 理由とともに予想させる。</li> <li>・備蓄倉庫にある非常食の箱や中身を観察できるように準備しておく。以前より増えたものの, 限りがあることを押さえる。</li> <li>・調理, 保存場所, 保存期間の視点に沿ってまとめていく。アレルギー対応食などにも気付かせたい。</li> <li>・羊羹などは食べ慣れていないので, スイーツの缶詰などもあることを紹介する。</li> <li>・参考資料: 「家庭用食料品備蓄ガイド」(農林水産省)</li> </ul> <p>〈評価〉どのような食料が非常食に適しているかを理解できたか。 (発表, ワークシート)</p>
終末	<p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の備蓄倉庫の非常食だけでは足りない。</li> <li>・自分の家でも非常食を備えておく必要がある。</li> <li>・自分の家では, 非常食を備えているだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭の非常食を調べる活動を学年だより等で事前にお願ひしておく。</li> </ul>

#### 4 板書計画

〈学習課題〉		
さいがいにそなえて, どのようなものを「非常食」として用意しておくよいか。	震災時の写真 (並ぶ人たち)	震災時の写真 (食料配付)
〈予想〉	〈結果〉	電気やガス, 水道が止まる (3日~1週間分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気も水道も止まる</li> <li>・れいぞうこが使えない</li> <li>・水</li> <li>・かんづめ</li> <li>・アルファ米</li> </ul>	<p>学校のびちくそうこ (非常食)</p> <p>飲料水, アルファ米, クラッカー, おかゆ, カレーライス, ようかん</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ちょうりしなくてもよい</li> <li>○れいぞうこで ひやさなくてもよい</li> <li>○長くもつ(賞味期限)</li> <li>○そのほか アレルギーたいおう, あまいもの カセットコンロ→インスタント食品</li> </ul>

#### 5 評価

どのような食料が非常食に適しているかを理解できたか。

授業実践例 9	総合的な学習の時間
小学校 高学年	F (2)

## 語り継ごう 東日本大震災

## 1 授業について

## (1) 教科等のねらい

(3) 探究的な学習に主体的，協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，積極的に社会に参画しようとする態度を育てる。

## (2) 防災教育のねらい

「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」等の見学を通して，震災の被害や人々の思いに触れ，震災を語り継いでいこうとする態度を育てる。

## 2 授業プラン作成に当たって

## (1) 児童の実態

東日本大震災時幼少期だった児童は，震災の記憶が薄らいでおり，被災体験を実感できていないことが多い。震災についての話を聞くことはあっても，被災地でありながらどこか他人事のように感じているところがある。また，震災からの8年が経過し，家庭の中で震災の教訓や記憶を話題にする機会も少なくなりつつある。一方で，いまだに被災による心のケアを必要とする児童もいる。

## (2) 指導事項の概要

仙台版防災副読本を活用するとともに，「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」の見学を通して，児童自身の防災に対する意識を高め，東日本大震災の教訓や記憶の風化を防止し，震災を語り継いでいこうとする態度を育てる。

## (3) 指導の方向

第1時 仙台版防災副読本「東日本大震災発生」の写真を見て，当時の様子から気付いたことや感じたことを話し合い，震災当時の様子をイメージさせ，「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」で調べたいことを考えさせる。

第2・3時 「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」を見学し，津波の脅威や教訓，語り継ぐべきことや人々の思いを感じ取らせる。

第4時 震災を語り継いでいる人々の思いに触れながら，「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」の見学を通して，自分が語り継いでいきたいことをまとめさせる。

## 3 授業の流れ（1／4時間）

段階	学習活動	指導のポイント
導入	<p>1 東日本大震災について，知っていることを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長い時間揺れていて，物が落ちてきた。</li> <li>・何回も揺れが来て，怖かった。</li> <li>・避難所に行った。</li> <li>・家族や友達から大変だったと聞いたことがある。</li> <li>・大きな津波が来た。</li> <li>・電気や水道，ガスがしばらく使えなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災について見聞きしたことや覚えていることがあれば話させる。</li> <li>・教師の経験を話す。</li> <li>・震災からの年月が経過し，日常的に震災について話す機会が減っていることに気付かせる。</li> <li>・事前に児童の被災経験を把握し，心のケアに十分配慮する。</li> </ul>

展開	<p>2 「東日本大震災発生」の写真を見ながら、気付いたことや感じたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路に人があふれている。</li> <li>・道路がひび割れている。</li> <li>・石油コンビナートが燃えている。</li> <li>・人がビルの屋上にいる。</li> <li>・車が水に流されている。</li> </ul> <p>3 探究課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」を見学し、震災を語り継ごう。</p> </div>	<p>【仙台版防災教育副読本 P.4,5】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「東日本大震災発生」の写真を見ながら、震災当時の様子を想像させる。</li> <li>・写真から読み取れる情報をできるだけ多く発表させ、震災当時の様子を共有させる。</li> <li>・震災について話す機会が減っていることを取り上げ、震災を語り継ぐ必要性をおさえながら探究課題を提示する。</li> </ul>
	<p>4 「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」の概要を知る。</p> <p>5 各自が調べたいことを考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震後、津波は何分くらいで来たのか。</li> <li>・荒浜小学校にいた人達（児童・教職員・住民）は、津波が来たときどうしていたか。</li> <li>・人や建物の被害はどのくらいあったのか。</li> <li>・津波は校舎のどこまで来たのか。</li> <li>・どうやって助けられたのか。</li> <li>・助けられるまで、どうしていたのか。どのくらいの時間がかかったのか。どんな気持ちだったのか。</li> <li>・荒浜小学校の周りは、今どうなっているか。</li> <li>・なぜ、荒浜小学校の校舎は残ったのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図で荒浜小学校の位置を確認し、海の近くであることをおさえる。</li> <li>・「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」の資料を参考に説明する。</li> <li>・「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」を見学して調べたいことをワークシートに記入させる。</li> <li>・各自が調べたいことを発表させ、より自分に合った課題となるように、加除・修正させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;評価&gt;「震災遺構 荒浜小学校」見学で調べたいことを考えることができたか。(発言・ワークシート)</p> </div>
終末	<p>6 本時の学習を振り返り、次時に向けた自分の課題を記入し、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時を振り返り、次時に向けた自分の課題をワークシートに記入させ、発表させる。</li> </ul>

### 授業の流れ（2・3／4時間）

段階	学習活動	指導のポイント
導入	<p>1 「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」の見学に当たり、自分の課題を想起する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを確認させる。</li> </ul>
展開	<p>2 「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」の見学を通し、自分の課題を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎の外観の見学</li> <li>・1階教室の見学およびパネル</li> <li>・2階廊下のベランダおよび廊下の見学</li> <li>・4階教室の見学および映像の視聴</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎外壁の様子から津波の高さと威力に気付かせる。</li> <li>・破損した教室やがれきに埋もれたパネル写真から、水の力を実感させる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災前の荒浜の街並み模型見学</li> <li>・地震が来た時すぐに高台に逃げた話を聞く。</li> <li>・屋上から周りの様子を見学</li> <li>・ヘリコプターで救助された様子を聞く。</li> </ul> <p>・分からなかったことを、案内の職員に質問する。</p> <p>3 海辺の施設の見学を通して、語り継ぐべきことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「荒浜祈りの塔」観音像と慰霊碑</li> <li>・流された松の木の残骸と残った松の木</li> <li>・残った住宅の基礎</li> <li>・モニュメント「荒浜記憶の鐘」</li> <li>・モニュメント「荒浜の歴史」</li> <li>・防潮堤から海を見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像資料を活用し、震災の様子を詳しく知らせる。</li> <li>・黒板や掲示物から、学校生活が突然失われたことに気付かせ、当時学校にいた児童の気持ちを想像させる。</li> <li>・屋上からの光景から、荒浜地区がなくなってしまうことに気付かせ、住んでいた人たちの思いを想像させる。</li> <li>・分かったことを、ワークシートにメモさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観音像と残った松の木から、津波の高さを実感させる。</li> <li>・慰霊碑の名前から、多くの人が亡くなった事実を知らせる。</li> <li>・住宅の基礎や流された松の木を残している理由を考えさせる。</li> <li>・どんな思いからモニュメントを作ったのか考えさせる。</li> <li>・防潮堤がかさ上げされたこと、それでも大津波は超える高さであることを知らせる。</li> <li>・海を見ながら、津波の脅威や教訓など、語り継ぐ必要を実感させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈評価〉「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」や周辺施設の見学を通して、震災の様子や被害の大きさを知り、被災した人の気持ちを考えることができたか。(発言・ワークシート)</p> </div>
終末	4 「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」および周辺施設の見学を通して、分かったことや感じたことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災の脅威と教訓・語り継ぐことの大切さに気付かせる。</li> <li>・ワークシートにまとめておくよう伝え、次時、感想や考えを発表し合う活動をするを伝える。</li> </ul>

#### 授業の流れ（4 / 4 時間）

段階	学習活動	指導のポイント
導入	<p>1 ねらいを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>見学を通して感じたことや考えたことを伝え合い、私たちが未来に語り継ぐべきことを考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に、見学時の写真等を掲示する。</li> </ul>

展開	<p>2 「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」の見学で分かったことや感じたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎に車が挟まっている写真を見て、津波の威力に驚いた。</li> <li>・鉄のベランダが曲がっていて驚いた。</li> <li>・津波の高さが想像以上でびっくりした。</li> <li>・二宮金次郎の像まで流れていた。</li> <li>・たくさんあった家が、一瞬で流されてしまうなんて信じられなかった。</li> <li>・観音像や慰霊碑を作って、亡くなった人を忘れないようにしているんだなと思った。</li> <li>・住んでいた町や学校がなくなったら、寂しいだろうなと思った。</li> </ul> <p>3 震災の教訓を忘れないようにするために、自分が語り継いでいくべきことを考え、まとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災の被害</li> <li>・3月11日の荒浜の様子</li> <li>・津波の脅威（高さ・到達時間・威力等）</li> <li>・地震が起きた時にとるべき行動</li> <li>・荒浜という地域があったこと</li> <li>・地域の人々はどのように立ち上がり、復興していったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを見ながら発表させる。</li> <li>・地震の被害という事実だけでなく、被災した人の心情面にも目を向けさせる。</li> <li>・今感じていることを、津波を知らない他の地域の人や、未来の人にも伝える必要性を実感させる。</li> </ul> <p>「語り継ぐ」方法として、未来の人へという相手意識を持って、伝える方法を考えさせ、まとめる。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未来の人へ手紙に書かせる。</li> <li>・壁新聞をつくる。</li> <li>・発表会をする。等</li> </ul> <p>「命を守る」ために必要なことを必ず伝えるよう助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>（評価）震災を語り継ぐことの大切さに気づき、学んだことを現在及び将来の自分の生き方につなげて考えることができたか。</p> </div>
終末	4 学習を振り返り、感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災地に住む者として「語り継ぐ」重要性に気付かせる。</li> <li>・学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えさせる。</li> </ul>

#### 4 板書計画 (第1時)

語り継ごう 東日本大震災

東日本大震災（平成23年）

写真

写真

- ・道路に人があふれている。
- ・道路がひび割れている。
- ・人が屋上にいる。
- ・石油コンビナートが燃えている。
- ・車が水に流されている。

「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」を見学し、震災を語り継ごう。

震災遺構 仙台市立荒浜小学校見学  
調べたいこと

- ・津波が来るまでの時間、高さ
- ・校舎の被害
- ・荒浜小にいた人の行動
- ・救助の様子
- ・現在の様子

(第3時)

語り継ごう 東日本大震災

荒浜地区の震災前後

写真 写真

荒浜小周辺の施設

写真 写真 写真

「震災遺構」を見学して感じたことを伝え合い、未来に語り継ぐことを考えよう。

<語り継ぐこと>

- ・東日本大震災の被害
- ・3月11日の荒浜の様子
- ・津波の脅威（高さ・到達時間・威力等）
- ・地震が起きた時にとるべき行動
- ・荒浜という地域があったこと
- ・地域の人々はどのように立ち上がり、復興しているのか。

5 評価

第1時 「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」見学で調べたいことを考えることができたか。

第2時 「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」や周辺施設の見学を通して、震災の様子や被害の大きさを知り、被災した人の気持ちを考えることができたか。

第3時 震災を語り継ぐことの大切さに気付き、学んだことを現在及び将来の自分の生き方につなげて考えることができたか。

6 ワークシート

別紙

語り継ごう 東日本大震災 (No1)

年 組 ( )

「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」の見学で、調べたいことを考えましょう。

自分の考え

友達の考え

【本時を振り返って】

本時の学習で気付いたことや感じたこと、震災遺構の見学に向けた自分の課題を記入しましょう。

<今日の授業で感じたこと>

<自分の課題>

※ 「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」見学して、自分が調べたいことを考えることができましたか。

( ◎ ○ △ )

語り継ごう 東日本大震災 (No2)

年 組 ( )

「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」を見学して、分かったことを書きましょう。

自分の課題

<震災の被害について>

<荒浜に住んでいた人の思いについて>

<地震が起きた時に、被害を最小限にするためにはどうすればよいか>

<その他>

「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」の見学をしての感想を書きましょう。

(次の時間、友達と伝え合ひましょう。)


※ 「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」を見学して、震災の被害や教訓、住んでいた人の気持ちを考えることができましたか。 ( ◎ ○ △ )





授業実践例 10	総合的な学習の時間
中学校 全学年	F (2)

## 震災を語り継ごう ～語り継ぐあの日の記憶～

## 1 授業について

## (1) 教科等のねらい

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

## (2) 防災教育のねらい

震災やその後の復興過程の記憶や記録から、語り継ぐべき情報や思いを取り出し、自分たちの言葉で語り継いでいこうとする。

## 2 授業プランの作成に当たって

## (1) 児童（生徒）の実態

震災の発生から8年が経過し、少なからず記憶の風化が進んでいる。生徒たちについては、これまで心のケアへの配慮から当時を思い出させない、触れない状況があり、当時の写真や映像を見る機会や震災当時を語る機会は、あまり多くはない。そこに記憶の風化が進んでいるジレンマが見られる。児童・生徒が、自分の体験をも踏まえ、当時を振り返り、どんなことがあったか記憶や思いを語る活動を通して記憶・教訓を整理し、将来へ伝えていく取り組みが風化させない活動の第一歩であると考えている。

## (2) 指導事項の概要

震災当時の写真を元に、写真から気付いたことや当時の自分の体験や大人から聞いたことなどを付箋紙に書き留め、一人一人の体験や記憶、「感じたこと、考えたこと」を発表（語り合い）させる。数多くの付箋（体験・記録）をもとに、写真のキャプション（説明書き）を作る活動を通して、震災当時の出来事や思い、将来へ伝えたいことを考えさせる。

## (3) 指導の方向

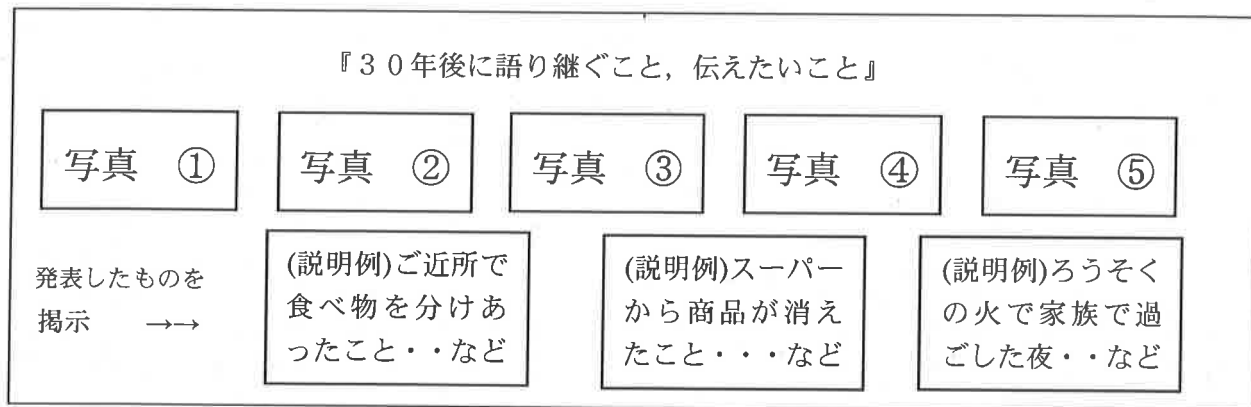
震災当時の記憶のない児童生徒が今後増えていく中でも、写真から分かる当時の様子を考える（読み取る）活動は、当時を学ぶ手立てとしては有効であると考えている。震災について、「あんなことがあった。」「こんなことがあった。」「こんなことを聞いたことがある。」「こんなことが読み取れる。」と、自分の言葉で様々に語らせることが、将来に渡って震災を風化させない取り組みにつながっていくものと考えている。

## 3 授業の流れ・・・（連続する2時間扱い）

段階	学習活動	指導のポイント
導入	<p>○学習内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今日の活動は「写真を題材に、震災の体験やその時の思いを語り合う」取組です。</li> <li>写真を見て、読み取ったこと、思い出したことなどを手持ちの付箋に書きましょう。</li> <li>付箋1枚につき体験や思いを一つ記入。</li> <li>付箋の内容を整理して、「30年後に語り継ぎたいこと」としてまとめて、キャプション作りをして今日の学習のゴールとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真1枚につき6人ぐらいの班をつくる。</li> <li>5グループなら5種類の写真を準備。</li> </ul> <p>○思い出したこと、写真や付箋への感想など、何でも自由に書いていいこと。（直接写真の内容と関係のないことでもよい。）</p>

<p>展開</p> <p>前半の活動</p> <p>後半の活動</p>	<p>○班の写真について付箋に記入する。</p> <p>○自分で付けた付箋について、班内で発表する。(聴き合い。語り合い。)</p> <p>○となりの班のテーブルに移動し、次の写真について付箋の記入と発表を行う。</p> <p>○同様の取り組みを繰り返す。</p> <p>○最初の写真に戻って、他の班員が記入した(増えている)付箋を読む。</p> <p>○付箋を整理パネルに整理する。</p> <p>○分類した中から、特に「伝えたいこと」「伝えなければならないこと」などを話し合う。</p> <p>○キャプション作り。この写真に付ける説明書きをまとめる。</p> <p>○各班がまとめたキャプションを発表する。</p>	<p>〈評価〉</p> <p>当時を振り返り、自分なりの経験や思いを自分の言葉で語ることができたか。(付箋、発表、態度)</p> <p>※すべての写真で行えなくても可。</p> <p>※下の整理パネルでは、①写真に写っていること。②写っていることにまつわる思い出。③写真をきっかけに思い出したこと。に整理している。</p> <p>〈評価〉</p> <p>語り継ぐべき情報や思いを取り出し、自分の言葉で語り継ぐキャプション作りができたか。(キャプション、発表、態度)</p>
<p>終末</p>	<p>○学習を振り返る。</p> <p>・30年後に残したい思い(付箋に書かれた思い)や今日の学習を振り返って思うことを一人一人が自分の言葉で記入する。</p>	<p>・互いに作成したキャプションを写真とともに掲示して、語り継いでいきたいことを共有する。</p> <p>・ワークシートに感想記入。</p>

#### 4 板書計画

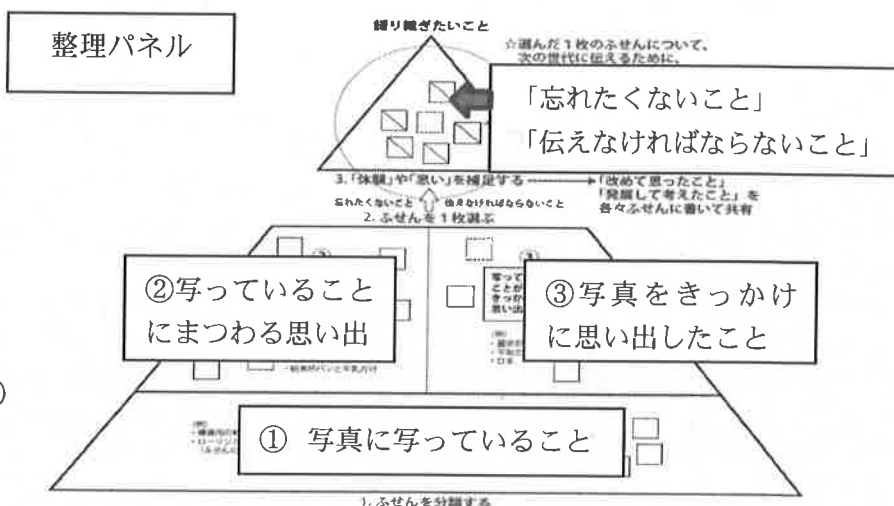


#### 5 評価

震災やその後の復興過程の記憶や記録から、語り継ぐべき情報や思いを取り出し、自分たちの言葉で語り継いでいこうとしている。

#### 6 整理パネル

(B2版に拡大し付箋を整理する)



授業実践例 1 1	学級活動
小学校 高学年	B (1)

## 大災害に備えよう

### 1 授業について

- (1) 教科等のねらい
  - (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全  
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

### (2) 防災教育のねらい

在校中に災害が発生したことを想定した避難訓練と災害発生時の対応について意識を高める。

### 2 授業プランの作成に当たって

#### (1) 児童の実態

現在、東日本大震災から8年が経過し、震災当時の様子を知る児童は少なくなっている。そのため、災害時にどのような行動をとるのか、どのような危険があるのかなどは児童にとって予想しにくい状況になってきている。したがって、震災時の状況や行動を考えさせることを通して、震災への備えと発災時の対応についての意識を高める必要がある。

#### (2) 指導事項の概要

仙台版防災教育副読本『3.11から未来へ』第1章「東北地方太平洋沖地震発生」(導入)、第4章「災害に備える」を活用する。災害が起こった時、どのような危険があるか予測し、どのように身を守り、行動するかということについて、引き渡し訓練や危険な場所調べを通して考えさせる。

#### (3) 指導の方向

在校中に災害が発生したことを想定して、避難訓練の意義について考えさせる。災害時には校庭等に避難した後、保護者への引き渡しが行われることが多い。そこで、より災害発生時に近い形で引き渡し訓練を児童に体験させる。そして、保護者とともに学校から自宅までの通学路を通りながら、危険な場所を確認させることにより、様々な状況による危険を避けるためにどのように行動するかを考えさせる。

### 3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	○副読本『3.11から未来へ』第1章「東日本大震災発生」を見て当時の様子を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">引き渡し訓練について考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が発生したときの状況を考えさせる。(道路の亀裂、ブロック塀の崩壊、がけ崩れ、津波避難、避難所運営 等)</li> </ul>
展開	○訓練の概要を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台市で震度5強の地震が発生したという想定で引き渡し訓練を行う。</li> <li>・学校に保護者が迎えに来た人から自宅に戻る。</li> <li>・自宅までの通学路を通りながら、親子で一緒にしながら危険な場所を確認する。</li> <li>・中学校と合同で行う。</li> </ul> ○訓練を行う理由を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の混乱を避けるため</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練の想定、動きを確認させる。</li> <li>・引き渡しは、仙台市で震度5強以上の地震のほか、不審者等で実施することを伝える。</li> <li>・万が一に備えて自宅までの災害時避難経路を保護者と共に確認し、危険箇所調べを行うことを知らせる。</li> <li>・自宅へ戻らない児童は、別の機会に通学路の危険な場所を確認するよう助言する。</li> <li>・自分の考えを書かせ、発表させる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に引き渡しの際に慌てないため</li> <li>・災害に備えるため</li> <li>・親子で災害について考えるため 等</li> </ul> <p>○訓練で気を付けることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が起きたときに困らないように真剣にする。</li> <li>・話をよく聞く。</li> <li>・どんな危険があるのか予想する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを書かせる。</li> <li>・グループ毎に話し合わせる。</li> <li>・事前に A3 用紙, マジック, マグネットを準備する。</li> <li>・司会者を決め, 意見交換を進めるように助言する。</li> <li>・班ごとに, 意見をまとめ A3 の紙に書く。</li> <li>・意見をまとめた A3 の紙を黒板に貼り, 意見を発表する。</li> <li>・引き渡し訓練を行う際に気を付けることを共有させる。</li> <li>・訓練の必要性・重要性に気付かせる。</li> <li>・本番を想定して緊張感をもって真剣に取り組むようにさせる。</li> </ul>
終末	<p>○自分のめあてを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を振り返りワークシート 1 に記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返り, 訓練に対する自分のめあてを書かせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〈評価〉 在校中に災害が発生したことを想定した避難訓練と災害発生時の対応について意識を高めることができたか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き渡し訓練後に, 調べた危険な場所について共有することを伝える。</li> </ul>

#### 4 板書計画

<学習課題>

引き渡し訓練で大切なことは何だろう。

1 班

3 班

5 班

2 班

4 班

6 班

訓練について

- ①机の下に隠れる。
- ②校庭に避難する。
- ③保護者の迎えを待つ。
- ④保護者が来たら一緒に帰る。

- ・保護者と一緒に通学路の危険な場所調べを行う。
- ・家に着いたら, 危険な場所と感想を記入する。

#### 5 評価

在校中に災害が発生したことを想定した避難訓練の仕方や意義について考えることができたか。

#### 6 ワークシート

別紙

# ワークシート1 (大災害に備えよう)

6年 組 番 氏名

---

## 【本日の引き渡し訓練について】

- 1 仙台市で震度5強の地震が発生したという想定で引き渡し訓練を行います。
- 2 学校に保護者が迎えに来た人から自宅に帰ります。
- 3 自宅までの通学路を通りながら、危険な場所の確認をします。

- 1 訓練を行う理由を考えよう。

- 2 訓練で気を付けることはどんなことだろう。

(自分の考え)

(グループの考え)

- 3 自分のめあてを決めよう。

## ワークシート2 (大災害に備えよう)

6年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

### 【危険な場所調べ】

## 学区の地図

- 1 学校から自宅までの通学路を赤線で記入しましょう。
- 2 通学路中で災害(地震)時に危険だと感じた場所があれば、地図中に①, ②・・・と番号をつけましょう。
- 3 危険だと感じた理由を下の表の中に書きましょう。

番号	危険だと感じた理由
①	
②	
③	

- 4 訓練を通して感じたことを書きましょう。

授業実践例 1 2	学級活動
中学校 2 学年	C (2), F (3)

## 避難所開設時，中学生の私たちにできること

## 1 授業について

## (1) 教科等のねらい

- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全  
エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

## (2) 防災教育のねらい

避難所開設の際，地域社会の一員として，自分たちができることについて積極的に考えることができるようにする。

## 2 授業プランの作成に当たって

## (1) 生徒の実態

東日本大震災より8年が経過し，今後入学する生徒は，震災時未就学となる。当然，震災当時の状況や避難所での生活の記憶も少なく，災害発生時の避難所がどのような状況になるのか予想し，行動を判断することは年月が経つにつれ困難となることが予想される。震災発生時においても被災状況に違いが見られた。被害の少なかった地域においては，震災当時の避難所の状況を紹介し展開することが必要と考える。

## (2) 指導事項の概要

導入では，仙台市防災教育副読本『3・11から未来へ』のP50～P51「地域の一員として」を活用し，地域防災リーダーの存在とその活動の様子を紹介するとともに，仙台市内の中学生が，現在，地域でどのような活動を行っているのかをその意義も含め紹介する。

その後，「避難所開設時，中学生の私たちにできること」をテーマに，KJ法を用いて意見交換を行い，その結果を発表し，考えを集団で共有する。

## (3) 指導の方向


「授業のねらい」にも記載したとおり，中学生に対する地域からの期待は想像以上に大きいことを伝えたい。可能ならば学区内のSBL（仙台市地域防災リーダー）の方々をゲストティーチャーとして招き，震災当時の様子や地域の一員として中学生に期待すること等を話していただく効果的であると考え。

意見交換においては，様々な視点から避難所生活の地域の人々を支える内容が出てくると考えられるが，少数の意見も大事にして生かしていきたい。KJ法は班内の意見の中で多数を占める意見やその場をリードしている人の意見だけでなく，少数派の意見や強く主張できない生徒の意見も公平に採用されうるという利点があり，今回の授業プランはKJ法を採用し，授業を展開することとした。

## 3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	○仙台市防災教育副読本「3・11から未来へ」P50「地域の一員として」を読み，地域の防災組織について知るとともに，	・同副読本P14～P15「私たちも立ち上がる」には震災当時の中学生が行った活動について紹介されているが，ここでは提示せず，展



	<p>P51 から市内の中学校で地域と共同で行っている活動内容を知る。</p> <p>○ 地域の年齢別人口構成をもとに、日中の20代から50代の大人の人口が職場の関係で少なくなっていることを知る。</p>	<p>開の段階で、意見交換時に意見が出にくい場合に活用することとする。</p>
<p>展開</p>	<p style="text-align: center;">避難所開設時、中学生の私たちにできることは何だろう</p> <p>○ 5～6人の班で「避難所開設時、中学生の私たちにできること」について意見交換を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者    ・障害者    ・外国人</li> <li>・小さい子がいる家族    等</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中で1名、あらかじめ進行役を決めておく。</li> <li>・付箋を全員に数枚ずつ配布し、「私たちができること」を記入する。</li> <li>・記入後、台紙である模造紙に一言述べながら持ち札のすべてを貼付する。</li> <li>・全員が貼り付け後、内容が近いカードを集めて意見交換を行いながらグループ化し、見出しを付ける。</li> <li>・単独のカードはそのままにする。</li> <li>・ふせんの内容から特に大切なことは何かを意見交換し、その内容をカードに記入する。</li> </ul> </div> <p>○ 避難所でできると思われることについて班内で意見交換した結果を学級の中で発表するとともに、記入したカードを黒板に貼る。発表後もカードは黒板に残しておく。</p>	<p>・事前に模造紙、ふせん、マジックを班の数準備しておく。また、進行役には手順を事前に説明しておく。</p> <p>・避難所開設の際、避難した人々の中で、特に支援が必要な人はどのような人で、どのような内容の支援を中学生がする必要があるのかを中心に意見交換を進めるよう助言する。</p> <p>○ 避難所のイメージが浮かばず、意見が出にくい場合は、副読本P14～15「私たちも立ち上がる」を紹介し、震災当時に中学生が行った活動を紹介する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;評価&gt;避難所開設の際、自分たちができることについて積極的に考えることができたか。(発言、ワークシート)</p> </div>  <p>・授業終了後は模造紙を教室後方や廊下に掲示し、生徒への意識付けを行う。</p> <p>・全班的発表終了後、しなければならないことの内容として「自分の体調管理を忘れない」等、避難所での活動においても自助を忘れないことを助言する。</p>
<p>終末</p>	<p>○ 意見交換で発表された内容を実現させるために、日頃から気を付けなければならないことは何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつや行事への参加を通して、地域とのかかわりを大切にする。</li> <li>・常に正しい情報を得ることができるよう心掛ける。    等</li> </ul>	<p>○ 意見交換の内容をもとに、学校や地域、家庭での日常生活において平時に留意する事項を個々で文章として記入させる。</p>

#### 4 板書計画

避難所開設時，中学生の私たちにできることは何だろう

私たちにできることは

高齢者，小さい子の誘導

物資の運搬

明るい雰囲気づくり

・(カードを貼付)

実現の



ために

日頃からできることは

・元気なあいさつ

・地域との関わり

・正しく情報を得る

自分の体調管理をしっかりする

←自助の考えを忘れない

模造紙掲示の場所

#### 5 評価

避難所開設の際，地域社会の一員として，自分たちができることについて積極的に考えることができたか。

#### 6 ワークシート

避難所開設時，中学生の私たちにできること

氏名 ( )

- 避難所が開設されたとき，特に支援（手助け）が必要なのは，どのような人でしょうか。

- 班の中で意見交換した結果，中学生にできることで，特に大切なこととしてどのようなことが出されましたか。（班長はカードにも記入してください。発表の際，黒板に掲示します。）

- 各班から発表された内容を避難所開設時に実現させるために，日頃から気を付けることとしてどのようなことが挙げられますか。

授業実践例 1 3	学級活動
小学校 中学年	F (2)

## 歌い継ごう～「復興ソング」

## 1 授業について

## (1) 教科等のねらい

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

## (2) 防災教育のねらい

震災やその後の復興過程の記録から、当時の小中学生の復興への思いに気づき、「復興ソング」を一人一人が歌い継いでいこうという意識を高める。

## 2 授業プランの作成に当たって

## (1) 児童の実態

東日本大震災当時、幼児だった児童は、震災やその後の復興の様子についての記憶はほとんどない。入学してから、「復興ソング」を歌う機会はあるものの、作成された経緯や歌詞の内容については十分理解されないまま歌っているのが現状である。

## (2) 指導事項の概要

「仙台版防災教育副読本 3. 11 から未来へ」の活用、復興ソング「希望の道」の歌詞の内容の理解を通して、当時の小中学生の復興への思いに気づき、復興への歩みを語り継ごうという意識を高める。

## (3) 指導の方向

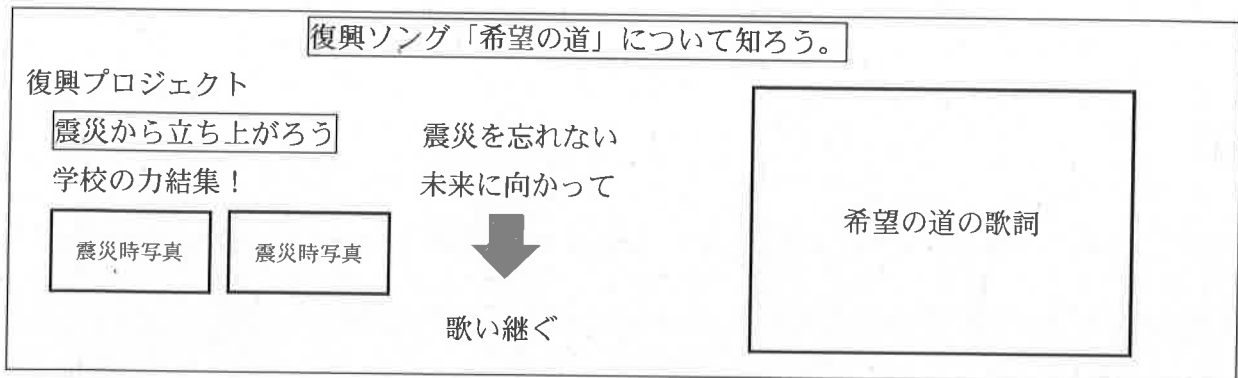
復興に向けて仙台市の小中学生がどのような活動をしてきたのかを「仙台版防災教育副読本 3. 11 から未来へ」の資料活用や教師の解説から気付かせる。そして、「希望の道」の歌詞について話し合うことで、復興ソングに込められた思いを知り、どんな思いで歌い継いでいくべきかを考えさせる。

## 3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	○ 復興ソング「希望の道」を聴く。 ・復興プロジェクトで歌った。 ・仙台市小中音楽会の時、全員で歌った。 ・震災と関係があると思う。	・どんな時に歌ってきたのかを想起させる。 ・なぜこの歌が作られたのかと問い掛け、関心を持たせてから学習課題を提示する。
展開	○本時の課題を知る。 復興ソング「希望の道」について知ろう。	

	<p>○復興ソングは、どうして作られたのかわかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作詞したのは当時の6年生だ。</li> <li>・震災から立ち上がろうという思いがあった。</li> </ul> <p>○「希望の道」の心に響いた歌詞にサイドラインを引き、感じたことについて発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あの日のことを忘れてはいけないという思い。</li> <li>・震災のとき、みんなで協力し支えたこと。</li> <li>・日本中、世界中の人たちが支えてくれたこと。</li> <li>・震災のことを忘れずに、希望を持って未来を歩き続けること。</li> </ul> <p>○「希望の道」をどんな思いで歌っていききたいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意味を考えながら歌いたい。</li> <li>・歌詞を覚えて歌っていききたい。</li> <li>・下級生や家族にどのようにしてできたのかを伝えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「仙台版防災教育副読本」(小学校4.5.6年P1, P18/中学校P16.17)を範読し、故郷復興プロジェクトの概要を知らせる。</li> <li>・当時の小中学生がどのような思いで復興ソングを作りたいと考えたのを捉えさせる。</li> <li>・中学校には、当時の中学生が作詞した復興ソングがあることにも触れる。</li> <li>・「希望の道」の歌詞を音読させる。</li> <li>・心に響いた言葉にサイドラインを引かせる。その言葉から、どのようなことを感じたかをワークシートに書かせてから発表させる。</li> <li>・「仙台版防災教育副読本」(小学校4.5.6年P4~7)の写真を見せ、「星のかがやき」「夜の冷たさ」「日本中が支え合い」「世界中が支えてくれた」について震災当時の状況を補足説明する。</li> <li>・これから「希望の道」をどのように歌っていききたいかを考えさせ、ワークシートに記入させる。</li> <li>・ワークシートを記入させた後、ペアで考えを交流させる。</li> <li>・数名の児童に発表させ、考えを共有させる。</li> </ul> <div data-bbox="798 1332 1412 1478" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈評価〉【希望の道】をどんな思いで歌っていききたいかを考えることができたか。(発言・ワークシート)</p> </div>
終末	○「希望の道」を歌う。	・歌詞の意味を考えながら歌うようにさせる。

#### 4 板書計画



#### 5 評価

「希望の道」をどんな思いで歌っていききたいかを考えることができたか。(発表・ワークシート)

復興ソング「希望の道」について知ろう

年 組 名前 ( )

希望の道

作詞 越後瑠璃(当時 台原小学校 六年)  
作曲 かの香織 遊佐未森  
編曲 佐藤準

夜空 見上げて 思い出す あの日の星の かがやきを  
日差しを浴びて 思い出す あの日の人の あたたかさ  
だれもがみんな助け合い だれもがみんな支え合った  
あの日のことを心に刻み 前をしつかり 見つめながら  
歩いていこう 未来への道を

雪のまう日に 思い出す あの日の夜の 冷たさを  
ラジオの語りに 思い出す あの日が教えてくれたこと  
日本中が助け合い 世界中が支えてくれた  
あの日のことを 心に刻み 前をしつかり 見つめながら  
歩いていこう 希望の道を

だれもがみんな助け合い だれもがみんな支え合った  
あの日のことを 心に刻み 前をしつかり 見つめながら  
歩き続けよう 希望の道を  
希望の道を

○歌詞から感じたこと

Blank rounded rectangular box for writing answers to the question above.

○「希望の道」をどのように歌っていきたいか。

Blank rounded rectangular box for writing answers to the question above.

授業実践例 1 4	学級活動
中学校 3 学年	F (2)

### 「復興への歩み」を語り継ごう

#### 1 授業について

##### (1) 教科等のねらい

- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全  
エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

##### (2) 防災教育のねらい

震災やその後の復興過程の記憶や記録から、語り継ぐべき情報や思いを取り出し、自分たちの言葉で語り継いでいこうとする姿勢を育む。

#### 2 授業プランの作成に当たって

##### (1) 生徒の実態

震災から8年が経ち、震災当時の記憶のない生徒や震災の経験をしていない生徒が増えてきた。防災学習やテレビの映像などで震災当時の様子は知っており、自助や共助の行動についても各種訓練などを通して身に付いてきている。しかし、当時の避難所での仕事や復旧作業などを実際に体験したわけではなく、なぜ防災学習が必要なのかについて実感することが難しくなっている。さらに、当時の中学生の活躍や考えなどを知る機会も少なくなっている。防災や救助の手段を身に付けていく訓練も必要であるが、なぜ必要なのかを考えさせることや、先輩方が築いてきた足跡を学び、引き継いでいこうとする態度を育むことの必要性が高まってきている。

##### (2) 指導事項の概要

復興に向けた地域での先輩方の歩みを語り継ぎ、東日本大震災の教訓や記憶の風化を防止するとともに、防災学習に進んで取り組もうとする態度を養っていく。そのために仙台版防災教育副読本や「ともに、前へ」（仙台市中学校長会制作DVD）を用い、復興に向けた中学生の歩みについて知り、「中学生にできること」について考えさせるとともに、復興への歩みを語り継いでいこうとする意識を高める。

##### (3) 指導の方向

仙台版防災教育副読本を活用しながら学習を進める。授業の前半では「復興ソング」と「故郷復興プロジェクトの歩み」を読み、復興を支えようとした当時の中学生の思いを考えさせる。後半では、「ともに、前へ ②」（仙台市中学校長会制作DVD）を視聴し、当時の中学生が行ってきたことを知らせる。その上で「今の自分だったら何ができるか」という観点で考えさせていく。当時の中学生の思いや活動を追体験させることで、防災学習の意味や、必要性を実感させたい。（DVDが準備できない場合は、仙台版防災教育副読本「3.11から未来へ」の第2章「復興への歩み」から「絆を力に一歩ずつ」と「私たちも立ち上がる」を資料として用いる。）

### 3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「仲間とともに」を聴く。</li> <li>○学習課題を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副読本 P8, 9 を見ながら聴かせる。</li> <li>・「なぜこの歌が作られたでしょう」と問い掛け, 関心を持たせてから学習課題を提示する。</li> </ul>
	「復興への歩み」を語り継ごう	
展開	「仲間とともに」にはどのような思いが込められているのだろうか。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何とかして復興を元気づけたい。</li> <li>・感謝の気持ちや前向きな気持ちを多くの人に聞いてもらうことで語り継いでいきたい。</li> <li>・団結することが大きな力を生み出すことを伝えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副読本 P16, 17「故郷復興プロジェクトの取組」を範読する。</li> <li>・ワークシートに書かせてから発表させる。</li> <li>・「語り継いでいきたい」「伝えたい」「感謝」「団結」「できること」などの言葉を取り上げ, 次の展開につなげる。</li> </ul>
	DVD「ともに, 前へ ②」を視聴し, 印象に残ったことを挙げよう。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・混乱し, 信じられないくらいつらい状況の中でたくましく生きている。</li> <li>・困った人のために何かをしたり, 助け合ったりすることが自然にできている。</li> <li>・積極的にいろいろな活動をしていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の活躍した姿を中心に捉えさせる。</li> <li>・DVDが準備できない場合は, 防災教育副読本の第2章「復興への歩み」から「絆を力に一步一步」と「私たちも立ち上がる」を資料として用いる。</li> </ul>
	「私には何ができるだろう」と歌詞にあるが, 自分たちにできることとはどのようなことだろうか。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの犠牲者の命の重みや, 今生きていることの尊さを心に刻み生きていく。</li> <li>・多くの命が輝くために自分ができることに精一杯取り組んでいく。</li> <li>・復興の取り組みを語り継いでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記入させた後, ペア学習で意見を交流させる。</li> <li>・全体で数名に発表させる。</li> </ul>
	<p>〈評価〉震災やその後の復興過程の記憶や記録から, 語り継ぐべき情報や思いを取り出し, 自分たちの言葉で語り継いでいこうとすることができたか。(発言, ワークシート)</p>	
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次の世代へ語り継いでいきたいこととして考えたことを発表する。</li> <li>・先輩方を見習い, 復興の取り組みや, 社会に貢献する心を引き継いでいきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート参照</li> <li>・ワークシートに記入させ, 数名に発表させる。</li> </ul>





平成29年3月 初版発行

仙台市教育局学校教育部教育指導課

平成31年4月 第2版（改訂版）発行

仙台市教育局学校教育部教育指導課



平成 30 年度 復興プロジェクトによる七夕飾り